

EDGE

International

EDGE

[IR]² Investors Relations
+
Integrated Reporting

LETTER

2015.2 vol.2

INDEX

- 01 IIRC NEWS
- 02 World NEWS
- 03 Topics
- 04 Best <IR> Practice Overseas
海外の統合報告先進事例

発行：EDGE International

お問い合わせ：news@edge-intl.co.jp

IIRC NEWS

IIRCが毎月公表しているニュースレターの翻訳版です。原文はこちらをご覧ください。
<http://www.theiirc.org/category/press/newsletter-press/>

▶ NOVEMBER NEWSLETTER

① 公的セクターの透明性と信頼を構築する

② 新しいテクノロジーを利用し
レポーティングを上達させる

③ **南アフリカの経験から学ぶ** ▶▶

④ World Congress of Accountants
(世界会計士会議) が採用への道を開く

⑤ “Creating Value” 発刊

⑥ 「統合報告」保証の討論に参加する
最後の機会です

3 南アフリカの経験から学ぶ

World Business Council for Sustainable Development (WBCSD、持続可能な開発のための経済人会議) は、南アフリカの企業による統合報告の実務について調査を行っています。調査は、「統合報告」にチャレンジした動機や必要条件について明確で簡潔な結論を提供しており、南アフリカの企業の実務経験に基づいたものです。また、「統合報告」は、簡潔であり、かつ戦略に焦点の絞られたレポーティングを後押しするとともに、一つの文書にまとめられた企業の戦略やリスクを、企業内外に早くそして簡単により良い理解をもたらすと、調査結果が示しています。

WBCSDは、南アフリカを拠点とする4社に詳細なインタビューを行い、調査レポートには、統合報告の利点、影響、そして統合報告の実践を通じて学び得たことが書かれています。「統合報告書の実践または統合思考の推進は、セグメントや職務間の関係を構築・強化や、意思決定の改善をもたらす。それと同時に統合報告は、戦略、リスク、ビジネスモデル間の繋がりを作り、事業が依存している資本に光を当て、そして長期的視点にフォーカスすることで、報告すべき重要な事項についてより良い理解をもたらす」。

インタビューに答えた企業によると、「統合報告」のプロセスは、以下を必要とします。収集とサポート；組み立て；データや情報を照合するシステム；統合チーム；年1回と対照的な進行中のレポーティング；コンテンツを発展させる強固なプロセス。また、現存の実践に建て増すこと、監査と情報を確かめること、そしてネットワークに参加すること、この全てがプロセスを手助けすると提唱しています。

World NEWS

アジアを拠点に活躍されている金融関係者によるニュースです。
「上場会社役員ガバナンスフォーラム」に掲載されているニュースをご紹介します。

外国人ファンドマネージャーの種類とその視点

近年、日本企業における外国人持ち株比率が極めて高くなり、外国人投資家の影響力が増している。メディアでは、外国人投資家がROEの改善やコーポレートガバナンスの強化などを、日本企業に要求していることが採り上げられている。本レポートでは、外国人投資家の中心である外国人ファンドマネージャーの実態に迫ってみる。


外国人ファンドマネージャーは、大きく3つの種類に分けられる。すなわち、グローバル株ファンドマネージャー、(日本を含む)アジア株ファンドマネージャー、日本株ファンドマネージャーである。以前は、日本株ファンドマネージャーが多かったが、日本株の長期低迷とアジア株の成長性から、日本株ファンドマネージャーが減少し、アジア株ファンドマネージャーが増加している。

日本株ファンドマネージャーは、日本株のみに投資するため、幅広い業種でポートフォリオを構築する。その結果、それぞれの業種の中で企業を相対比較することになる。例えば、ソニーとパナソニックなどを比較して、業界内で相対的に魅力的な企業をポートフォリオに組み入れる。一方、アジア株ファンドマネージャーは、その業種内相対比較が、日本ではなく、アジア全体での比較になる。例えば、ソニーと比較するのは、サムスンということになる。ここで、他のアジア企業と比較して、日本企業のROEが低いとかといった議論になる。グローバル株ポートフォリオマネージャーの場合は、世界の中での日本という視点になる。その結果、組み入れられる日本企業数は限られる。業種内での比較さえも行わない場合がある。例えば、日本の民生用電機業界に魅

力がないとなると、この業種で、まったく日本企業を組み入れないといったことが行われる。

以上のように、同じ外国人ファンドマネージャーといっても、運用するファンドによって、企業を選択する視点が異なる。その結果、企業への質問や提案も変わってくる。したがって、彼らのポートフォリオの種類を知ることは重要である。それによって、彼らがどの企業群と比較して意見を言ってきているのか理解することができる。

その他関連ニュースはこちら


 <http://govforum.jp/>
(有料会員登録が必要です)

TOPICS

国内外で発信された統合報告/IR/ESG関連のニュースをご紹介します。

東証がガバナンスコードの策定に伴う上場制度整備についてパブコメを募集

東京証券取引所はコーポレートガバナンス・コードを2015年6月1日より上場企業に対して適用予定です。これに伴う上場制度の整備について概要を2月24日に公表し、3月26日までパブコメを募集しています。この概要によれば、コーポレート・ガバナンス報告書での諸原則に関する「開示」を要求しており、“Comply or Explain”を採用しています。ガバナンス報告書は定時株主総会後に遅滞なく提出することとされ、初回は2015年12月末まで(3月決算会社の場合)の提出スケジュールとなっています。ガバナンスコードの原案は3月初旬、金商庁の有識者会議から最終報告が公表される予定。

 <http://www.tse.or.jp/rules/comment/b7gje600000186jz-att/20150224jojo2.pdf>


Robeco Sam社が今年のグローバルESG格付を公表

スイスのESG評価会社Robeco Sam社は、2015年版のイヤーズブックを公表しました。この調査ではセクター毎にサステナビリティ格付けが行われ、DJSI (Dow Jones Sustainable Index) の評価にも使われています。日本企業は39社が選出され、セクターリーダーにはベネッセ、花王、丸紅、住友林業の4社が選ばれています。環境・社会に関するマテリアルイシューは、サステナビリティレポートだけでなくアニュアルレポートにも掲載する企業が増加傾向にあります。ただし割合としては小さく、評価企業1,813社のうち、環境については15.3%、社会については8.9%の割合となっています。

 <http://yearbook.robecosam.com/>

日本企業のGlobal 100へのランクインは1社にとどまる

毎年1月、ダボス会議に合わせて公表されるGlobal100(世界で最も持続可能な100社)が公表されました。世界の大企業を対象に、サステナビリティ情報、財務情報等を分析し、持続可能性を評価しています。日本企業は、エーザイ(前回69位)が50位にランクインしたのみとなりました。欧米企業が8割以上を占めていますが、シンガポールのKeppel Land(不動産セクター)が4位にランクインしており、アジアの最高位となっています。韓国企業の最高位はPOSCO(金属鉱山セクター)で、36位に入っています。

 <http://www.corporateknights.com/reports/global-100/2015-global-100-results/>

Best <IR> Practice Overseas

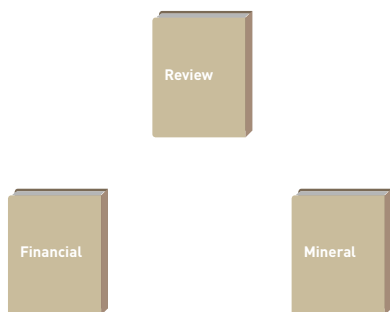
先進的に統合報告に挑戦する企業の取り組みをご紹介します。

case:

Gold Fields

<https://www.goldfields.co.za/>

Gold Fieldsの アニュアルレポーティング



特徴

ヨハネスブルク証券取引所に上場している Gold Fieldsは義務的開示として統合報告を行っています。統合報告書は上記3冊で構成されています。特に産金企業で重要性の高い、操業状況に関する情報を地域毎に開示したレポートも作成しています。

ダイナミックな環境におけるリスク報告を行う Gold Fields

業務部マネージャー Sven Lunsche氏は、近年、鉱山企業の社会および環境パフォーマンスに対し、社会的な圧力が強まるにつれ、企業文化に変化の兆しが生じているとみている。

Gold Fieldsが抱えるリスクの少なくとも半分は、これまでサステナビリティとみなされてきた非財務的な問題に関連している。同社では、目標に対する実績や、ストライキのような特に繊細な問題について、透明かつ重要な方法により報告を行うことを目指している。「当社はまだ間違いを犯すことがありますが、鉱山の経営者は社会的、環境的問題について、財務的問題と同等に説明責任を負う必要があると考えています。」とLunsche氏は述べ、こう続ける。「当社は、鉱山経営に対して統合管理のアプローチを採用しており、当社の四半期報告書は、これを反映しています。統合報告は、本質的に、当社の実践的な経験値に基づいています。統合報告は、当社が会社を経営する方法を反映しているのです。」

Lunsche氏は、<統合報告>が、内部および外部のステークホルダーに向け、統合管理の実践に関するメッセージを強化すると主張する。彼は「鉱山業に従事する者は、

この仕事にとって、地域社会リスクこそが最大の課題のひとつであることを認識しています。それは、事業を行うのに不可欠なソーシャル・ライセンス（操業許可）をもっているか？と問うことに等しく、当社は雇用不安や、それが業務に及ぼす影響、さらには当社がどのように対処したかといった問題に取り組みます。鉱山業は何かと議論を引き起こしやすい業界ですから、当社は課題に正面から取り組み、報告方法の透明性を高めることでそうした社会リスクに備える必要があるのです。」と、付け加える。

Gold Fieldsはリスク・エクスポージャーとそれらに対する対応を前年からの変化も含めて詳細に報告しています。「金と銅の価格・為替レートのボラティリティ」が最も重要なイシューであるとヒートマップで示しており、CEOレポートでも触れています。

詳細はこちら

詳細はこちら

WEB IIRC パイロット・プログラム
2013年イヤーブック（翻訳協力：EDGE）

